

令和2年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立若宮中学校
実施日	令和3年2月

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・コロナ禍のため計画の立て直しなど課題が多い1年であったが、学校だよりやHPを通して教職員や保護者へ経営ビジョンが示され、特色ある学校に向けて教育活動にあたってきた。	B	・学校だより・HPより経営ビジョンが示され、教育活動に当たっている。 ・職員の多くが経営ビジョンに基づき教育活動に取り組んだことは評価できる。 ・コロナ禍において計画的に取り組めないものについて、次年度は改善できるよう望む。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・自然災害が多発する中、コロナ禍における避難訓練の実施や雷対応等、今までと違った対応を求められた1年であった。その都度、感染防止策や災害対応等に組織的に取り組むことができ、職員の危機管理意識も向上した。	A	・小中での共通事項は適切に連携をとることができている。 ・トラブルの対応には一部課題もあるようだが、概ね職員内で迅速かつ協力体制で対応できていることは評価できる。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・働き方、勤務時間・超過時間への意識改革は見られ、職員の在籍時間は明らかに減少した。しかし、ノー残業デーの設定に課題が残り、職員全体で取り組むことができなかった。また、休暇取得の推進にも課題が残る。	B	・ノー残業デーは学校全体で取り組むべきものであり、全職員が協力する必要がある。 ・教員の年休取得について現在の制度では難しい部分もあると思うが、職員の健康管理の為に組織的に取り組んでほしい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業を行っている。(市共通項目)	B	・コロナ禍における授業は様々な制約がある中、今までとは違った授業を展開するため授業改善に取り組んできた。主体的・対話的な学びに向けて更なる改善を図ってきたい。	B	・コロナ禍の中、わかりやすく工夫した授業をするのに苦労していると思うが、学力の維持は出来ていると考える。 ・今年度は対話に難しさを感じました。来年度の指導要領の全面実施がスムーズに進められるよう頑張ってください。 ・コロナ禍で通常の授業とは異なる進捗を余儀なくされたと思うが、新たな工夫により授業の質の向上に努められた。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・コロナ禍における道徳授業の重要性から今年度は特に時間の確保及び組織的に授業を展開(ローテーション授業)し、指導の充実を目指してきた。	A	・道徳の授業計画に添った指導を行い、豊かな心を育む教育に尽力している。 ・生徒への道徳教育について丁寧に指導していることが感じられる。引き続き充実した授業展開を期待する。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・「5分前行動、2分前着席」は多くの生徒に浸透し、落ち着いた生活へ繋がっている。 ・あいさつ励行にはまだまだ課題は残る。	B	・学校訪問時、生徒から進んであいさつができていると感じている。 ・人の話を聞く態度(授業態度=姿勢)は成人になっても大切なことである為、改善を望みたい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・埼玉県教育委員会から提供される研修資料を活用しながら教職員事故防止に向けた研修を計画的に実施し、教職員の意識の高揚が図られている。	A	・教職員倫理は、教える者として一番大切なものであるが、全職員で意欲的に研修、実践している。 ・多くの職員から話しやすく職場環境が良いとの意見があることは素晴らしい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にできる態度で接している。	A	・個に応じた指導ができるよう生徒の話をできるだけ傾聴し、生徒理解に積極的に努めてきた。 ・各部会を中心に学年職員、さわやか相談員、スクールカウンセラーとの連携が図られ生徒指導対応に生かされている。	A	・生徒に対し、積極的に関わっている教員が多く、生徒を大切にしていると思う。 ・生徒指導への見方はいつも難しさを感じます。生徒指導提要の読み合わせを年度初めにしても「すべき」感がぬけません。 ・一人一人の生徒に合わせた指導は時間に制約のある中で行うことは難しいと思うが、引き続き生徒に寄り添う気持ちを大切にしたい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	・会議、打合せ、研修を通して情報の共有が図られている。 ・様々な交流が行われ、充実した教育活動が行われた。また、ユニバーサルデザインの意識も向上してきているが、更なる充実を図ってきたい。	A	・研修を通して情報の共有化、交流授業の充実が図られている。 ・特別支援教育における指導法などの知識は、課題のある生徒や学級運営に活用できる。引き続き連絡や研修機会の充実を図りたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・定例の安全点検を通して、迅速に修繕が行われている。また、清掃用具も充実しており、環境整備に努めた。 ・生徒は、無言清掃の取組をよく頑張っている。	A	・安心安全な教育環境は大切であり、その整備に努めている。 ・いつもきれいな学校です。 ・施設は全体的に老朽化が進んでおり、根本的な改修が望まれる。 ・清掃用具の点検などは丁寧に図られており、整備された教育環境である。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・HPの更新、メールの活用を通して情報の発信に努めてきた。特に、年度当初の休校中の連絡・情報提供では有意義であった。	A	・学校だより・HPなどにより積極的に学校の様子を公開している。 ・学校だよりは地域への回覧も行われており、教育活動が地域で身近に感じられる。 ・HPはもう少し充実を図りたい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・コロナ禍においても、学校応援団、PTAの皆さんの協力が得られ、学校環境整備や多くの生徒たちとの関わりも見られた。 ・家庭・地域との連携を図りながら、定期的に登下校のパトロール等を行い、生徒の安全に努めてきた。	B	・コロナ禍の中ではあるが、家庭・地域との連携が図られ、生徒の問題解決に当たっている。 ・学校応援団の活動は、円滑な学校運営に必要な存在となっていることが伺える。 ・生徒の学習習慣を定着させる為の家庭・地域との連携はあまり進んでいないと思われる。今後検討を願う。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・小学校との連携・交流は今後の課題の1つとして挙げられるが全教員の交流となるとコロナ禍の状況ではかなり難しい。具体的に来年度の連携は、何が出来るか模索中である。	B	・小中の情報交換は行われている様であるが、さらなる推進が必要と思われる。 ・今年度は難しかったです。取り組み方の工夫を今後していきたい。 ・小中の情報の共有は定期的に限られた教員のみとなっている為、連携教育は実感としてはあまりないのではないか。他の学年の教員も含めて交流し、情報共有を図りたい。